

東京都千代田区神田駿河台3-2-11
総評会館1階 原水禁気付
「さようなら原発1000万人アクション」
実行委員会
電話 03-5289-8224
FAX 03-5289-8223

さようなら原発 1000万人ニュース

第1号
2011年7月1日



さようなら原発アクションがスタート 内橋克人さん・澤地久枝さん・鎌田慧さんが記者会見

六月十五日に東京都内で「さようなら原発集会」と「さようなら原発一〇〇〇万人署名」の二つの脱原発行動のスタートを告知する記者会見を開きました。

二つの運動は、内橋克人さん、大江健三郎さん、落合恵子さん、鎌田慧さん、坂本龍一さん、澤地久枝さん、瀬戸内寂聴さん、辻井喬さん、鶴見俊輔の九人が呼びかけたものです。

記者会見には、内橋克人さん、鎌田慧さん、澤地久枝さんの三人が出席し、原子力発電を止めるための思いを訴えました。

「さようなら原発集会」は、本年九月十九日（月・敬老の日）午後一時から、東京の明治公園で、五万人の参加を目標に開催します。また「さようなら原発一〇〇〇万人署名」は、脱原発を求める署名を一〇〇〇万人分集めて、福島原発事故から一年目となる来年の三

月十一日に、日本政府と衆参両院に提出しようというものです。

呼びかけ人は、二つの運動の目標として、①新規原発建設計画の中止、②浜岡から始まる既存原発の計画的廃止、③もっとも危険なプルトニウムを利用する「もんじゅ」「再処理工場」の廃止——の三つをあげました。

呼びかけに込め、事務局として協力するために、「原水爆禁止日本国民会議」（議長・川野浩一）、「原子力資料情報室」（共同代表・西尾漢、「環境エネルギー政策研究所」（代表・飯田哲也）の三団体が、「さようなら原発一〇〇〇万人アクション実行委員会」を結成しました。また行動への賛同を、作家・著述家・学者・法律家・ジャーナリスト・NGO代表などの方々にお願したところ、六月十四日現在で、四十八人から賛同をいただきました。

澤地久枝さん 一〇〇〇万人の声、政治家は無視できない

自民党の石原伸晃幹事長は、脱原発を「集団ヒステリー」と言ったそうです。新聞やテレビを見ていても、「もう大丈夫」とか、「原発を止めたら日本は滅びる」とか、原発に対して疑問を持つ人たちを引き戻そうとする発言が、目に付きます。

日本は世界に先駆けて、核兵器はもとより原発を無くす方向へ、国の政治を変えていくべきだと思えます。だけれども、そう考えている人たちが、テレ



ビや新聞に出てきて、物を言える社会でしょうか。

ここに来る途中のタクシード、運転手さんにそういう話をしたら、「どうぞ、がんばってください」と言われました。「何かやらないのか」と思っている人は、たくさんいると思うのです。何もしないでいたら、このまま進んでしまいそうです。知らない間に、原発が五十四基もできてしまったのです。案じていた通りに原発の事故が起きて、水素爆発も起きてしまったのです。

政府や、原子力安全・保安院の発表は、一日一日と変わりましたね。はつきりとした数字も見せません。つまり私たちは、知る権利があるのに、知らされていない状態に放置されていたのです。

そうした中で、自分に何ができるのかを考えました。私一人の力は本当に小さいけれども、原発はいやだという気持ち、世界に対して恥ずかし

い気持ちがあります。第五福竜丸があり、東海村のJCO事故があり、日本は他の国にはない被ばくの歴史を背負っているのです。

その国に原発があり、保安管理が実に杜撰であることが、明らかになりました。今度の事故でも、最初に被爆した三人の作業員のうち二人は、長靴も履かずに放射能に汚染された水に入って、被爆したのです。核のエネルギーに対する無警戒、無知な態度は、被ばくした人たちに対して痛ましく思うと同時に、世界に対して恥ずかしいと思うのです。

致命的なダメージは、子どもたちの身の上に起きることが、チェルノブイリ事故などをあげて、語られてきました。いまま安全だと言いがら、でも屋外では遊ばせないで、窓を閉めて部屋の中で遊ばせるようにとか、全然安全でない指示が出されています。こうしたことに、疑問を投げかける場所がないのです。

一人の力は小さいです。しかし一千万人が「原発はいやだ」と署名したら、いくら頭の良くない政治家であっても、

無視できないと思うのです。百万人では、ダメです。人を動かす数字は、一千万人だと思えます。一千万人の署名は、実現することができません。いまバラバラに運動が始まっています。一つの形を作って、呼びかけ人の責任でまとめて、政治家たちに突きつけます。

この事故は、日本だけの問題では済みません。海には仕切りはありません。空気にも仕切りはありません。ですから

ら、朝鮮半島や、アメリカ西海岸や、台湾で、福島原発の事故による放射能被害が出て、その国から抗議が来る可能性もあります。地球に対する致命傷になるようなことを、日本はやってしまったのです。世界に対して、私は恥じたいと思います。恥じるだけでなく、行動に移したいと思います。

みなさん、この問題を理解していただき、人々に広めてください。お願いします。

内橋克人さん 原発は「合意なき国策」だ

私は二十五年前に、『原発への警鐘』（講談社文庫）という本を書きました。当初は、原発に対して賛成でも反対でもない立場でした。自分の目で確かめるということを始めたわけです。今でも覚えていることがあります。一つは、原子力

発電エネルギーに対して疑いを持つ者は、「科学の国のドーン・キホーテ」だと言われたことです。先端的な科学立国で

ある日本の中で、遅れた前世紀の遺物、ドーン・キホーテ、異端者という扱いでした。

二つ目は、島根原発の第二号炉を増設するときに原子力安全委員会が行った公開ヒアリングです。それがまったく儀式に過ぎないことがわかりました。若いお母さんが、「島根原発で事故があった場合に、私たちに宍道湖を泳いで逃げろ」というのか」と、胸詰まる質



問を発したのです。しかし原子力安全委員会の委員長は、一切無視したのです。「私たちはあなたの方の話を聞くだけだ」「私たちは意見を述べない」という態度を貫きました。

そうして何ができたかという、「合意なき国策」です。原子力エネルギーは国策と言っているけれども、国民的な合意は、いつ誰が与えたのか。

原子力発電そのものを、人間の制御下におけるものではないということが、事実を調べる中で十分わかってきました。とりわけ、地震列島、活動期に入った狭い日本列島の中心で、原発過密立国というのが、

はたして人々の安全、幸せにつながるのかという、大変深い疑問を持ったのです。

いま問題になっている福島の一号炉、これが作られる過程も、詳細に証言を得ました。福島の一号炉は「フルターンキー」です。キーをもらって、回せば、工場が動くというものです。全てをアメリカのGE社からもらった。しかもGE社の技術者が福島にやってきてビレッジを作った。何にも疑問をさしはさむことが許されぬ。そっくりいただくという状況です。

日本の技術者はアメリカに、わずか二週間研修に行っただけなのです。こうした技術開発は、とても危ないと思うのです。

そうした中で、原発利益集団ができ上がっていきます。私たちは一人一票しか選挙権がないのに、この集団は、もう一つの選挙権を行使しているのです。ある経済団体は、自民党と民主党の政策評価をやって、原子力エネルギーに対して前向きなのか、否定的なのか、ランキングして政治献金の額を割り振りしています。これが原子力を取り囲んだ、利益集団を形成しています。

私は『共生の大地』（岩波新書）の中で、ヨーロッパ各国におけるエネルギー選択のあり方を書いていきます。自由なエネルギー選択があるからこそ、技術は進むわけです。

日本では、原子力発電に特化させることで、本当はもっと幅の広いエネルギー選択を自ら狭めてしまった。そして、ここに至ったのだと思います。今回の三・一一が、人々に及ぼす、世界に及ぼす影響は申し上げるまでもありません。そういう事故の悲惨について、私は強調したいのです。

戦前における軍需産業、これが戦後における原発産業でした。原発産業で数千億、こういったものを作り上げていくことで、個人消費が向上しなくても、経済が成長できる構造を作っていました。戦前は、昭和恐慌から脱出するために軍事産業を興し、戦争につながりました。戦後の原子力エネルギーに、私たちは軍需産業の姿を見ることができ止めなければなりません。

鎌田慧さん 市民の力で原発体制を押し返すチャンス



いま原発のある地域は、全部、反対運動のあつた地域です。反対運動があつたけれども、潰されてきた地域なのです。僕は全て回ってきましたが、全部お金で潰されているのです。電力会社が、何でも寄付し、お金で買ってあげてしまふ。

電源三法で、原発を一基作りますと、最初の建設までの十年間で五百億円、稼働してから十年間で四百数十億円、

二十一年間で一千億円が入るのです。建設でも五千億円くらいのお金が入りますから、膨大なお金が地域に流れ込んでいくのです。

反対運動も、なかなか成立しません。いまも、ほんの少数の人たちが残っています。ほとんどが負けてしまっています。原発は、アン・モラル、非道徳的な存在だと思えます。全てをお金で解決してきたのです。

原発体制として、国・官僚・政治家・学者・マスコミ・裁判所が一体化して、頭の上に乗っていました。いま、不幸なことですが事故が起きて、それがはじめて、語りやすくなったのです。大きな運動で押し返していく、そのチャンスなのです。

なんとか署名と集会を、やり遂げていきたいと思えます。ヨーロッパに負けたくないような、大きな力を発揮したいと思えます。

「さようなら原発集会」にお集まりください

三月十一日の東日本大震災によって、東電福島第一原発は、一号炉から三号炉までが最悪事態の炉心溶融（メルトダウン）を引き起こしました。

水素爆発、工場外壁の破壊などによって、高濃度の放射性物質が、海水、大気、土壌に放出され、環境を汚染するという未曾有の事故となりました。

二ヶ月がすぎても原子炉の暴走は収束する気配がなく、いまなお極めて不安定な状況が続いています。これまでの放射性物質の拡散量だけでも、地域の住民と労働者ばかりか、まだ生まれていない将来の子どもたちの健康と生命にとっても、計り知れない悪影響を与えると危惧しております。

原子力と人間の共生など、けつしてありえないことなのですが、それに気づいていながらも、私たちの批判の声と行動があまりにも弱かった、と深く悔やんでおります。

いま原発を拒否する声はさまざまな運動となつて拡がっていますが、わたしたちはこれまでの怠慢を反省し、政府や財界や電力会社などが、原発推進の巻き返しにでないためにも、さらに大きな市民の力で、原発依存の生活から脱却する道をあゆみだしたい、と念願します。

わたしたちは、自然を収奪し、エネルギーを無限に浪費する生活を見直し、自然エネルギーを中心とする「持続可能な平和な社会」にむかうために行動します。その目標です。

一、新規原発建設計画の中止

二、浜岡からはじまる既存原発の計画的廃止。

三、もつとも危険なプルトニウムを利用する「もんじゅ」、「再処理工場」の廃棄。

これらを実現して、わたしたちの生存と未来の子どもへの責任を果たします。「原発にさようなら集会」を、つぎの要領で開催いたします。どうか皆さんでご参加ください。

呼びかけ人

内橋克人

澤地久枝

大江健三郎

瀬戸内寂聴

落合恵子

辻井 喬

鎌田 慧

鶴見俊輔

坂本龍一

さようなら原発集会

日時 9月19日（月・敬老の日）

午後1時から集会

集会終了後にデモ行進

場所 東京・明治公園

JR「千駄ヶ谷駅」下車・3分

地下鉄大江戸線「国立競技場駅」下車・2分

全国各地から5万人の参加をめざして開催します。9月19日は明治公園で、皆で一緒に「脱原発」を訴えましょう。

さようなら原発1000万人署名

期間 2011年6月から2012年2月まで

提出先 内閣総理大臣 衆参議長

原発の廃止を実現するために、1000万人の署名を集めて、政府と国会に提出します。1000万人の署名が集まれば、国も無視することはできません。政治を動かすのは、私たちの声です。署名用紙をご希望の方は、以下に電話してください。

原水禁 03-5289-8224

原子力資料情報室 03-3357-3800

編集部から

「さようなら原発1000万人アクション」が始まりました。六月十五日に行つた記者会見を、東京新聞、朝日新聞、共同通信社などが報じてくれました。そのためか、翌日の朝早くから、事務所には問い合わせの電話が、たくさんかかってきました。

私が受けた電話の中で、印象に残つたものが二本ありました。一本は、「パソコンを持っていないので、これまでは集会の情報を知ることができませんでした。九月の集会には、必ず参加します」という女性からのもの。もう一本は、「障害があるので集会には行けません。署名には協力します」という男性からのものです。

集会や講演会の開催情報は、Eメールやホームページでの告知が当たり前になりました。でもパソコンを持っていない人もたくさんいます。そうした人たちにも情報を届けることの重要性を、改めて感じました。また集会に行きたくても、障害があつたり、仕事や家庭の都合があつたりで、行けない人もたくさんいます。そういう人たちが意思表示できる場も必要です。

澤地久枝さんの発言の中にもありましたが、「何かやらなくては」と思っている方が、たくさんいらつしやいます。そういう声を集めて拡げて、原発の廃止を実現しましょう。